科目名:発達心理学Ⅱ	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、発達心理学Ⅰで学んだ乳幼児の一般的な発達の基礎の上に、さらに保育場面で子どもが生活や遊びを通してどんなことをどのように学びながら発達していくのかを考える。さまざまな実践事例から、子どものとらえ方や発達援助のあり方について、より具体的に学ぶ。グループディスカッションや発表、課題解決学習等を通して、グローバルな視点から、多文化共生の中での発達と保育・教育のかかわりについて、理解・考察を深めていく。

授業の到達目標
１．子どもの心身発達をふまえた生活や遊びの指導・援助について理解し、具体的に考えることができる。
２．保育場面で出会うさまざまな子どもの姿について、発達とのかかわりで心の内面にも注目して深く理解し、的確な対応を考えることができる。
３．より丁寧な支援を必要とする子どもとして外国籍の子をとらえ、具体的な対応を考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学ぶ内容は、実習を初めとする自身のこれからの実践にも積極的に活かしていけるよう、徹底理解をめざしたい。そのために準備学修として、事前に配布される該当範囲の資料をよく読み込んで、要点をつかみ、自分なりの考えをまとめておくこと。事後学修としては、学習範囲の要点を確認・整理し、理解と考察を深めるよう努めること。より実践的な理解を深めるために、さまざまな年齢の子どもやより丁寧な支援を必要とする障がい児や外国籍の子ども等とかかわる機会を進んで持つように努めましょう。

評価方法
定期試験　70%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループ活動への取り組み状況等）10%　から総合的に評価します。

教科書	参考図書
資料配布　　及び「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	随時紹介していきます

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践を読む時は、もし自分がこの実践者ならどう対応するか考え学びましょう。発達との関連で実践を考える姿勢とグローバルな視点を大切にしてください。オフィスアワーは月・金お昼休みです。連絡先は授業で指示します。

01	子どもの発達と保育実践（1）子どもの個人差や個性を大切にした保育とは
02	子どもの発達と保育実践（2）子どもが安心して自分を出せる保育とは
03	子どもの発達と保育実践（3）身体全体を使った多様な経験と発達とのかかわりを考える
04	子どもの発達と保育実践（4）子ども相互のかかわりと集団づくり
05	子どもの発達と保育実践（5）環境としての保育者と子どもの発達
06	生活や遊びを通した学びの過程（1）子どもの発達と保育の現状と課題から生きる力を考える
07	生活や遊びを通した学びの過程（2）0・1・2歳児が生活の中で学ぶこと
08	生活や遊びを通した学びの過程（3）0・1・2歳児が遊びの中で学ぶこと
09	生活や遊びを通した学びの過程（4）3・4・5歳児が生活の中で学ぶこと
10	生活や遊びを通した学びの過程（5）3・4・5歳児が遊びの中で学ぶこと
11	保育における発達援助（1）基本的生活習慣の獲得をめざして
12	保育における発達援助（2）主体性を育むために
13	保育における発達援助（3）発達の連続性と就学への支援を考える
14	保育における発達援助（4）異年齢保育の中で育つもの
15	保育における発達援助（5）多文化共生の保育・教育の中で育つもの
16	定期試験

科目名:幼児理解とカウンセリング	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
この授業では、乳幼児のこころ発達を踏まえた子どもの心を理解する。加えて、最近は、さまざまな問題を抱えた子ども理解が学校・保育現場では求められるので、子どものこころの問題やその対応についても学ぶ。できるだけ具体的に、実際の子どもの事例を基に子ども理解を考えていく。自分が実習やボランティアで会った子どもたちをどのように理解しているのか常に振り返りながら、学生同士の意見交換をふまえ、多様な子ども理解の視点を学んでいく。

授業の到達目標
乳幼児の発達を踏まえた子どもの心が理解できる。
学校・保育現場で出会う子どもたちのこころの問題やその対応について理解する。
乳幼児の理解がその個人の理解に加えて関係性の視点から理解できる。
対人援助を行うためには，自分のこころの理解も必要となるので，授業を通して，自己理解をすることもこの授業目標となる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活や実習、ボランティアで出会う子どもについてしっかり観察をして子ども理解を深めてください。
授業で出された課題についての予習復習を求めます。

評価方法
毎授業で提出するミニレポート課題　30%　授業内の課題　20%　筆記試験50%の結果によって評価を行います。

教科書	参考図書 　幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書 　幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書 　幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先・オフィスアワーは授業時に開示する。さまざまな視点から子どもを理解するためには、他者の見方を学ぶ必要があります。授業では、学生同士の意見交換をしますので、積極的に授業に参加してください。

01	自身の子ども時代の振り返りと現在の子ども理解についての他者との交流
02	関係性の視点からの子ども理解について学び、教師側の自己理解についても学ぶ。
03	子どもの発達に伴う、心の問題の表れ方について学ぶ
04	実習等で出会った子どもへの理解について交流し、理解の多様性を知る
05	心理アセスメントについて学ぶ
06	子ども理解のための観察・面接法を学ぶ
07	発達検査・知能検査を知り、子ども理解に生かす方法を学ぶ
08	性格検査を知り、子ども理解に生かす方法を学ぶ
09	子どものことばや行動から子どもを理解する
10	愛着形成について学ぶ
11	虐待や不適切な養育環境で育った子どもたちへの理解
12	子どもの精神疾患について学ぶ
13	身体的ハンディキャップを持った子ども理解と指導について学ぶ
14	発達障がいの子ども理解と指導について学ぶ
15	保護者の子ども理解を促進する方法について学ぶ
16	試験 試験

2019年度シラバス

科目名:児童家庭福祉	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
児童の成長発達と生活を保障するために、家庭や保護者に対して子育て支援を目的として実施する種々の社会的な施策や援助を学ぶ。児童家庭福祉の意義や歴史的背景を学ぶ。児童家庭福祉での児童の権利を学ぶ。児童家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ。児童家庭福祉の現状と課題を学ぶ。児童家庭福祉の動向と展望を学ぶ。

授業の到達目標
児童家庭福祉の意義や歴史的背景、児童家庭福祉での児童の権利、児童家庭福祉の制度や実施体系、児童家庭福祉の現状と課題、児童家庭福祉の動向と展望を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読んで予習を行い、疑問点など質問できるようにしておく

評価方法
課題レポート40%・授業参加・集団討論参加態度３０%・最終レポート３０%

教科書	参考図書
保育実践と児童家庭福祉論・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書	授業で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から子どもに関するニュースに関心を持ち、新聞や他の報道に接すること。本も読むこと
連絡a-harada@ohkagakuenn -u.ac.jpオフィスアワー金曜日昼休み

01	児童家庭福祉の理念と歴史的展開
02	現代社会と児童家庭福祉
03	児童家庭福祉の一分野としての保育
04	児童の人権擁護と児童家庭福祉
05	児童家庭福祉の法律と行財政
06	児童家庭福祉の実施期間・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と児童の健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	虐待防止、ドメスティック・バイオレンス
11	社会的養護
12	障害のある児童への対応
13	非行への対応
14	子ども・子育て支援制度の仕組み
15	保育と教育・療育・保険・医療などの連携とネットワーク
16	

2019年度シラバス

科目名:社会的養護	担当者:近藤　日出夫	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 社会的養護とは何か、保護を必要とする子どもたち(被虐待など)の児童養護施設などにおける日常生活を紹介するなかで、より良い支援の在り方を学ぶ第1歩とする。映像による児童養護施設の子どもたちの声を届け、より身近な存在として捉えられるようにする。併せて施設実習への動機付けと不安の払しょくに繋げる。
授業の到達目標 社会的養護と家庭養護の違いを明らかにし、我が国の児童福祉行政の現状について認識を深める。専門職として求められる育てにくい子どもや保護者に対し、ソーシャルワークの視点にたって考えを深める。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 社会の動きと子育てはリンクしており、格差社会が広がる中、一番力の弱い子どもたちが犠牲になっている現実を重く受け止められる視点を育てたい。そのため新聞などのマスコミ報道を見聞きし見聞を深める。積極的に児童福祉施設へのボランティア活動を推奨する（百聞は一見に如かず）。
評価方法 毎講義ごとのレポートの提出を義務付け評価の5割とする。残りは最終講義のまとめと授業の出席率を勘案して最終評価を決定する。

教科書	参考図書
社会的養護内容　谷口純世/山縣　文治編著　ミネルヴァ書房	「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問などは火曜日昼休みに講師控室まで

01	今日の社会的養護
02	社会的養護と子どもの権利
03	里親制度やファミリーホームについて
04	社会的養護における自立支援計画について
05	社会的養護における日常生活の中での支援について
06	みんなで行う治療的支援
07	自立支援に繋げる援助支援体制について
08	児童養護施設などに暮らす子どもたちの映像を通して実態を知る
09	社会的養護にかかわる専門職に必要な知識と技術
10	ソーシャルワークと社会的養護
11	施設の小規模化の流れ
12	小規模施設の課題
13	児童養護施設の機能と地域分散化の流れ
14	社会的養護の課題とこれから
15	社会的養護のまとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:教育の方法	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　学校教育制度に位置づけられている幼稚園の教育の方法・技術について学ぶ。幼稚園の保育の方法の基本理解、教育実践の基本理解の学修を行う。教育方法の技術や指導法を身に付ける。授業方法は、教科書による学修と応用的な発表などを取り入れる。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する。②小学校との連携についてその方法・技術を理解する。③小学校低学年の教育の方法・技術について理解する。④視聴覚教材の活用方法を修得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前学修として、教科書を熟読してくること。事後学修として、授業内レポートを読み直して自己学修を深めること。

評価方法
授業内レポート（40%）、授業での発表・討論への参加（10%）、最終レポート（50%）の割合で、総合評価とする。

教科書	参考図書
豊田和子編著『実践を創造する　幼児教育の方法』みらい、2013年	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
原則、毎授業のレポートがありますので、積極的な学習をしてください。実習等で欠席した学生は必ず、自分で授業レポート課題を取りに来てください。オフィスアワーは火曜・水曜の昼休みです。

01	幼稚園における集団生活の意義と教育の方法
02	遊び活動の指導・援助の方法（１）遊び活動の意義について
03	遊び活動の指導・援助の方法（２）指導援助の具体的方法について
04	生活活動の指導・援助の方法
05	課題活動の指導・援助の方法
06	行事の指導・援助の方法
07	プロジェクト型活動の指導・援助の方法
08	幼稚園と小学校の連携課題と教育方法
09	授業指導の方法事例（１）レッジョ・エミリアアプローチの検討
10	授業指導の方法事例（２）小学校生活科授業実践の検討
11	授業指導の方法事例（３）幼小連携の授業実践の検討
12	教育評価の方法について
13	情報リテラシー教育について
14	情報機器の活用方法と課題
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と協同」	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。主体的対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける

授業の到達目標
乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する（特に、少子化・核家族・虐待・貧困）
領域「人間関係」のねらい内容を理解し、構想し、実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習やボランティア・アルバイトなどで子どもの様子をよく観察する。また子ども同士の関りや保育者と子どもとの関り、又は保護者を含む大人と子どもの関りをよく観察すること

評価方法
課題レポート４０％・授業参加・集団討論参加内容30%・最終レポート30%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書	授業で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
a-harada@ohkagakuenn -u.ac.jp
オフィスアワー金曜日昼休み

01	人と関わる力：現代社会と乳幼児の人間関係
02	人と関わる力：人間関係の理論的枠組み
03	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の「人間関係」
04	0歳児の人間関係
05	1歳児の人間関係
06	2歳児の人間関係
07	3歳児の人間関係
08	4歳児の人間関係
09	5歳児の人間関係
10	自立心・主体性をはぐくむ援助の在り方・指導案の作成と模擬授業
11	協力・共同をはぐくむ援助の在り方・教材研究と情報機器の活用
12	かみつき・いざこざの援助の在り方
13	就学前にまでに育ってほしい姿の考察と援助の在り方
14	保護者との人間関係
15	職場での人間関係
16	

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と表現Ⅰ」	担当者:麓　洋介	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
“音”や“音楽”を使った様々な表現活動の実践とそれに関連した講義を中心に進める。

授業の到達目標
幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領および保育所保育指針等に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
身の周りにある様々な音、色や形、動き、香り、手触りなどに注目し、五感を意識する。日常生活の中で感動する体験を多く積み、感性を豊かにする。また、授業で取り上げた活動を振り返り、気付いたことや考えたこと、保育における実践を想定した改善点などについて自分なりにまとめ、ポートフォリオを作成する。

評価方法
ポートフォリオ（50%）、授業内における小レポートおよび作品の提出（20%）、模擬保育（20%）、授業への参加態度（10%）を総合的に判断する

教科書	参考図書
『保育内容の理論と実践－保育実践を支える理論とその指導法－』（保育出版会）	『幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）』 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもの表現に気付き、共感し、感性・創造性・想像力を育むためには、子どもの発達の過程を理解すること、および保育者自身にも豊かな感性・創造性・想像力が求められます。授業では、何よりも思い切り“表現すること”を楽しみ、表現遊びの体験を通して様々なことを発見し、考えてもらいたいと思います。
オフィス・アワーについては授業前後、連絡手段については授業時にメールアドレス等連絡先を開示します。Moodleでの質問も受け付けます。

01	幼児の発達と表現活動の意義
02	表現活動における様々なアプローチの方法
03	表現活動を創造的に展開するための教材・指導案の作成
04	遊びから表現活動への展開
05	身近な素材や物を使った表現活動の展開
06	身近な自然との関わりを通した表現活動の展開
07	コミュニケーションを楽しむ表現活動の展開
08	身体感覚への気づきから展開する表現活動
09	想像を楽しむ表現活動の展開
10	季節や生活との関わりから展開する表現活動
11	五感を結びつけた表現活動の展開
12	物語を手掛かりとした表現活動の計画
13	物語を手掛かりとした表現活動の準備
14	物語を手掛かりとした表現活動の実践
15	まとめ
16	実施しない。授業内において小レポート、作品制作等を課す。半期終了時にポートフォリオを提出する。

科目名:障害児保育	担当者:勝浦　眞仁,小柳津 和博	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: なし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状 と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

授業の到達目標
① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関 係機関との連携・協働について理解する。
⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状 と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
評価方法⊠名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。
授業内容発表（10%）、事例検討会発表（20%）、レポート（40%）、授業への参加態度（30%）、により総合的に評価する。

教科書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）

参考図書
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。２年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp
oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	知的障害の理解と援助
03	発達障害の理解と援助
04	配慮を必要とする子どもⅠ（気になる子ども）
05	配慮を必要とする子どもⅡ（母国語・家庭環境）
06	障害児保育の歴史と現状－インクルーシブな保育―
07	まとめ：障害とは―障害の考え方を理解する―
08	子ども同士の関わり合い・育ち合い
09	個々の発達を促す生活と遊びの環境
10	保護者・家族との連携
11	関係者との連携（地域専門機関、小学校）
12	乳幼児健康診査、就学時健康診断
13	指導計画・個別の支援計画の作成と活用、ケース会議
14	事例検討会の準備
15	事例検討会（発表）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:乳児保育	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院での経験や保育所園長の経験を踏まえ、乳児保育の意義や役割を具体的に検討し、乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から2歳の発達の特徴、保育で保育者が配慮すること、乳児保育における保育者の役割、大切にしたいことなど、加えて乳児期の遊びの種類や方法を学びます。

授業の到達目標
人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論を保育の事例から学びます。また教材作成等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で提示する参考文献を読むこと。ボランティアなどで乳児に接する機会を多く持つこと

評価方法
課題レポート40%・授業参加・グループ討論参加態度３０%・最終レポート３０%・

教科書	参考図書
保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書	授業で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学んでいきます。
a-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp　オフィスアワー金曜日昼休み

01	乳児保育が社会で果たす役割
02	乳児保育での保育者の役割
03	乳児保育のこれまでとこれから
04	0歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
05	0歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
06	1歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
07	1歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
08	2歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
09	2歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること
10	3歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること
11	乳児保育の内容と方法
12	乳児保育のあそび・教材研究
13	乳児保育の保育記録と保育計画Ⅰ・指導案の作成
14	乳児保育の保育記録と保育計画Ⅱ・情報機器の活用
15	乳児保育のまとめ　確認テスト
16	

科目名:社会的養護内容	担当者:上田　一稔	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の内容・方法に関する領域に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活の支援・自立支援等の方法と技術を理解するとともに、保育者としての支援力を習得する。授業は演習方式で少人数のグループを作り、各事例に関するグループワークを行う。

授業の到達目標
１．社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。2．施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する。3．個々の子どもに応じた自立支援計画、児童発達支援計画等の作成の意味と留意点を理解する。4．施設養護および家庭養護での保育士の役割を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
定期試験(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。

教科書
よくわかる「社会的養護内容」(第3版)　小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之編　ミネルヴァ書房
「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

参考図書
授業の中で適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道に関心を寄せ、自分自身の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業時に開示する。

01	オリエンテーション・社会的養護の概要
02	子どもの権利擁護と保育士の倫理および責務
03	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
04	施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設)
05	家庭養護の特性および実際
06	支援計画の作成(自立支援計画・児童発達支援計画)
07	日常生活支援に関する事例分析
08	心理的支援に関する事例分析
09	自立支援に関する事例分析
10	記録および自己評価
11	社会的養護における保育士の専門性および多職種連携支援
12	社会的養護におけるソーシャルワーク
13	被虐待児への対応および虐待防止
14	施設の小規模化と地域福祉との連携
15	社会的養護の課題と展望・授業のまとめ
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:算数	担当者:小林　美記代	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
・学習指導要領に基づいて、算数を学ぶ意義を具体的に講義する。
・算数の基本知識やその意味について講義し、幼児の生活の中での具体例を示す。

授業の到達目標
・小学校算数科の目標や理念を理解し、算数の楽しさを体得する。
・算数は、人間が長年にわたって築きあげてきた文化であること、人間の生活を豊かにするものであることを理解　し、幼児の生活の中に取り入れられるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・次時の内容を予告し、課題を提示するので、各自で解いてくる。詳細は授業で示す。

評価方法
・毎回の授業への参加態度及びレポート（プリントの記入）７０％、確認テスト３０％

教科書	参考図書
特になし（毎回、プリントを配布する）	・幼稚園教育要領解説・保育要領解説・小学校学習指導要領解説算数編（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・ペアやグループで話し合いや実習を行うことがあるので、積極的に参加すること。
・連絡方法は、授業内で開示する。

01	オリエンテーション：何のために算数を学ぶのか。算数の有用性を確認する。
02	学習指導要領算数科の目標：論理的な考え方とは何か。算数の教科書から確認する。
03	算数におけるアクティブラーニングの有効な方法やユニバーサルデザインを明らかにする。
04	数の意味を理解するとは、どのようなことなのかを明らかにする。
05	算数に関するお話作りを通して、表現力をつけさせる方法を探る。
06	幼児の遊びの中にある数学的思考を明らかにし、関連遊具を作る。
07	コンパスを使い、いろいろな図形の作図方法を確認し、掲示物作りに活かす。
08	図形の特質を利用して、折り紙で立体図形を作る。
09	図形の特質を身に付ける遊びを考え、実習する。
10	面積の概念を身に付ける遊びを考え、実習する。
11	幼児の遊びの中にある比例関係を明確にし、理解する。
12	「活用」の意味を理解し、生活の中の算数の知識の活用場面を見つけ、問題を解く。
13	幼児の遊びの場面で、確率を求める。
14	実際の生活の場面で、確率を求める。
15	総まとめと確認テスト：幼児の生活の中の算数探しをして、教育の場に活かす方法をまとめる。
16	なし

2019年度シラバス

科目名:生活	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 小学校低学年において展開されている生活科は、具体的な活動を通して自立への基礎を養うことが目標とされている。幼児教育における「環境」領域のねらいや実践と初等教育との関連実践を学習し、幼小連携の視点をもった教育内容について学ぶ。授業方法は、教育要領等、学習指導要領の理解検討と応用的な発表などを取り入れる。
授業の到達目標 幼小連携の要である小学校「生活科」の実践を中心に、幼稚園教育要領「環境」領域と比較検討し、幼児期から学童期の子どもの「気付き」に着目した保育・教育指導について理解することを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 必ず教育要領等の資料を読んで授業に臨むこと（準備学修）。また、幼児や児童の生活に関わる課題に関心をもち常に実践のイメージをもてるようにしておくこと（準備学修）。実践検討を通して、自己の実践課題などとともに考える（事後学修）。
評価方法 授業内レポート（30%）、実践案発表（20%）、まとめレポート（50%）

教科書 使用しない	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書、小学校学習指導要領解説（生活） 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書、小学校学習指導要領解説（生活） 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書、小学校学習指導要領解説（生活）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 原則、毎授業のレポートがありますので、積極的な学習をしてください。 オフィスアワーは火曜・水曜の昼休みです。

01	生活科の誕生と意義
02	小学校学習指導要領（生活）と幼稚園教育要領について
03	合科的な指導のあり方について
04	学校内や通学路の安全について
05	家庭生活における自分の役割について
06	身近な人との交流について
07	地域の人々との生活について
08	公共物・公共施設の利用について
09	子ども自身の生活の工夫について
10	身近な自然や物を使った遊びについて
11	動物の飼育について
12	植物の飼育について
13	出来事を伝え合う交流について
14	子ども自身の成長の振り返りについて
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:音楽ⅡＡ	担当者:石山 英明,基村昌代,加藤希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本授業では、基礎歌唱法及び幼児歌曲の弾き歌いとそれに対応するピアノ奏法を習得する。歌唱法では、表現方法と発声全般について学んでいく。ピアノ奏法では、表現方法・歌唱とのバランス等について学んでいく。授業は1クラス6人程度のグループに分かれ、個人レッスンと集団レッスン課題により適宜切り替えながら展開する。
授業の到達目標 課題の習得により、音楽的で円滑な幼児歌曲の弾き歌いやピアノ演奏が出来るようにする。また、コード弾きや、臨機応変に楽曲をアレンジするなどの応用力を持つことを目標とする。幼児歌曲の弾き歌いは、季節や年齢に対応した曲のレパートリーを構築することも本授業の大切な目標である。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 予習と復習により、レパートリーの定着を図りましょう。また、実習やボランティア等、保育・幼児教育現場で行われている音楽・表現活動に目を向け、子どもの表現活動の適切な援助が出来るスキルの獲得に努めましょう。
評価方法 実技試験50%、授業内の課題評価30%、授業への取り組みの様子などを評価する平常点20%の合算により評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）	楽譜の他、音源も参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) コツコツと粘り強く、適正な筋道に沿って練習を続けることが、上達への近道だと思います。一緒に頑張りましょう。連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	オリエンテーション／レッスン１（姿勢、初見視奏、初見視唱、課題提示）
02	レッスン２（呼吸、ソルフェージュ、弾き歌い課題１）
03	レッスン３（ブレス、ソルフェージュ、ピアノ課題１）
04	レッスン４（頭声と胸声、リズム、弾き歌い課題２）
05	レッスン５（ロングトーン、ハ長調とイ短調のコード、ピアノ課題２）
06	レッスン６（共鳴、色々な調性のコード、弾き歌い課題３）
07	レッスン７（発声全般、写譜、ピアノ課題３）
08	レッスン８（表現、合唱課題１）
09	レッスン９（コード弾き１ コードの知識）
10	レッスン１０（コード弾き２ 実践基礎編）
11	レッスン１１（コード弾き３ 実践応用編）
12	レッスン１２（弾き歌い課題４）
13	レッスン１３（ピアノ課題４）
14	レッスン１４（合唱課題２）
15	レッスン１５（実技試験曲の仕上げ）
16	実技試験と課題の振り返り

2019年度シラバス

科目名:音楽ⅡＢ	担当者:石山　英明,基村昌代,加藤希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本授業では、基礎歌唱法を発展させ、斉唱・輪唱・重唱などの経験と幼児歌曲の弾き歌いのレパートリーを拡大することにより、更なる音楽力の獲得を目指す。コード弾きによる弾き歌いでは、扱う調性や拍子を増やし、伴奏アレンジについても応用力を高めていく。教育・保育現場での音楽活動を見据え、各自が目標感を持ってレパートリー選択を行い、それらの表現方法について様々な角度から学ぶ。授業は1クラス6人程度のグループに分かれ、個人レッスンと集団レッスン課題により適宜切り替えながら展開する。
授業の到達目標 課題の習得により、音楽的で円滑な幼児歌曲の弾き歌いとピアノ演奏のレパートリーを拡大し、各自の音楽的な表現スタイルを身につけることを目標にする。幼児歌曲の弾き歌いは、季節や年齢に対応した曲のレパートリーを構築することも本授業の大切な目標である。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 予習と復習により、レパートリーの定着を図りましょう。また、実習やボランティア等、保育・幼児教育現場で行われている音楽・表現活動に目を向け、子どもの表現活動の適切な援助が出来るスキルの獲得に努めましょう。
評価方法 実技試験50%、授業内の課題評価30%、授業への取り組みの様子などを評価する平常点20%の合算により評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、歌のカレンダー（エー・ティー・エヌ）	楽譜の他、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) コツコツと粘り強く、適正な筋道に沿って練習を続けることが、上達への近道だと思います。一緒に頑張りましょう。連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	オリエンテーション／レッスン１（発声法の確認、初見視奏、初見視唱、課題提示）
02	レッスン２（斉唱１、ソルフェージュ１、弾き歌い課題１）
03	レッスン３（斉唱２、リズムソルフェージュ１、ピアノ課題１）
04	レッスン４（輪唱１、聴音１、弾き歌い課題２）
05	レッスン５（輪唱２、ソルフェージュ２、ピアノ課題２）
06	レッスン６（重唱１、リズムソルフェージュ２、弾き歌い課題３）
07	レッスン７（重唱２、聴音２、ピアノ課題３）
08	レッスン８（ソルフェージュ３、コード弾き１）
09	レッスン９（リズムソルフェージュ３、弾き歌い課題４）
10	レッスン１０（聴音３、ピアノ課題４）
11	レッスン１１（ソルフェージュ４、コード弾き２）
12	レッスン１２（リズムソルフェージュ４、弾き歌い課題５）
13	レッスン１３（聴音５、ピアノ課題５）
14	レッスン１４（レパートリーの定着をねらいとした復習）
15	レッスン１５（実技試験曲の仕上げ）
16	定期試験　実技試験と課題の振り返り

2019年度シラバス

科目名:海外の保育	担当者:小野　克志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
将来の日本社会の発展を考えたとき、世界的な競争と共生が進む現代社会で豊かなコミュニケーション能力を身につけ、異文化体験を積み、国際社会で活躍する人材が増えていくことは極めて重要であると考える。この授業では、諸外国の現行の保育制度、子育て制度に関する特性、形態を考察し、新しい時代を生きる子どもたちに相応しい、保育、幼児教育、子育てのあり方を考えたい。

授業の到達目標
海外の保育・幼児教育のあり方を知り、その共通性と多様性を理解し、日本の保育・幼児教育の目指す方向性についても自分なりの考え方を持ち、説明することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
新聞やニュースに触れて、時事問題や文化を知り、自分の興味の幅や視野を広げておく

評価方法
授業への参加態度 35%　小テスト　25%　定期テスト 40%

教科書	参考図書
「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	授業概要
02	諸外国と日本 ～日本の保育・幼児教育はどこは向かうのか
03	諸外国と日本 ～世界が保育・幼児教育に投資する理由
04	オーストラリアの保育・幼児教育①（EYLF）
05	オーストラリアの保育・幼児教育②（The NQF）
06	ニュージーランドの保育・幼児教育①（Te Whariki）
07	ニュージーランドの保育・幼児教育②（Assessment in Early Childhood Settings）
08	イタリアの保育・幼児教育① レッジョ・アプローチ
09	イタリアの保育・幼児教育② モンテッソーリ教育
10	ヨーロッパの子育て・保育①　（スウェーデン）
11	ヨーロッパの子育て・保育②　（フランス）
12	ヨーロッパの子育て・保育③（デンマーク、オランダ）
13	ヨーロッパの保育・幼児教育④　（フィンランド、ノルウェー）
14	アジア諸国の保育・幼児教育
15	多文化共生、多文化教育
16	定期試験

科目名:子どもの保健Ⅱ	担当者:船井　廣則	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児に不可欠な安全上の配慮と健康の維持増進に関わる基本的な知識を学ぶ。また、保育に必要な技術修得のための演習、および保育所(園)での乳幼児の生活に必要な健康に関する保健計画の立て方も学ぶ。授業はグループを単位とした学習形態で進められ、相互に発表と評価も行う。

授業の到達目標
１．乳幼児の疾病やその予防についての知識を身につけ、適切な対応ができるようになる
２．乳幼児の事故の際の救急対応ができ、安全な保育環境の整備ができるようになる
３．乳幼児の身体計測用具の取扱や操作方法に習熟する
４．健康・安全に関する保健計画の立案ができるようになる
５．グループでの活動を通して、互いに協力し合うことの大切さを学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備：受講に当たってはシラバスに目を通し、事前にその概要を把握しておく
　　日頃から各種のメディアにあらわれる乳幼児に関する情報に注意を払う
事後：授業内容を再確認し、ノートの補足などをする

評価方法
①出席チェックを兼ねた意見・質問カードの提出(30%)。②実技習得度（20%）。③学期末試験期間に提出するレポート（50%）

教科書
子どもの保健演習ガイド　高内正子編著　　建帛社

参考図書
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント　汐見/武藤監修　ミネルバ書房
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント　汐見/武藤監修　ミネルバ書房
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント　ミネルバ書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　Moodleをできるだけ活用したいので、授業前日にはMoodleにアクセスし、アップロードされている資料などを確認しておく。必要に応じダウンロードする。オフィスアワーは金曜日昼休み。

01	ガイダンス（授業の概要・進め方・受講上の諸注意など）
02	乳児の理解とあつかいについて（抱き方・衣服の着脱・排泄の世話）
03	乳幼児の健康の指標（１．身体的評価とバイタルサインの評価）
04	乳幼児の健康の指標（２．精神・運動発達の評価）
05	新生児・乳児の清潔保持の意義(沐浴演習)
06	歯の健康について
07	罨法と服薬について
08	乳幼児の体調不良への対応(発熱・咳・嘔吐など)
09	乳幼児のけがと応急処置
10	心肺蘇生法について
11	保育室の環境・衛生について
12	保健活動の計画とその評価
13	保健だよりの作成について
14	保健だよりの発表
15	まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養	担当者:辻岡　和代,鈴村　昌子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解する。
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や、食育、食生活に関する諸問題について理解する。
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。

評価方法
授業への参加態度30%、確認テスト40%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡）
02	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
03	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
04	幼児期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
05	学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活　（辻岡）
06	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
07	食育の基本と内容　（辻岡）
08	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（鈴村）
09	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（鈴村）
10	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（鈴村）
11	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン・ミネラル　（鈴村）
12	食事摂取基準　（鈴村）
13	献立作成・調理の基本（鈴村）
14	総括と確認テスト　（鈴村）
15	プレゼンテーションとその活用　（辻岡・鈴村）
16	

2019年度シラバス

科目名:地域研究Ⅰ	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
オーストラリアの歴史は、高校の世界史にも登場せず、一般に学ぶ機会はほとんどない。本科目では、国際教養こども学科学生としてオーストラリアへの長期留学を見据えて、同国事情を学ぶ。同国の成立から歴史、社会全般を学ぶ。特に白豪主義から文化多元主義に転換したオーストラリア社会の変化については詳しく扱う

授業の到達目標
オーストラリア事情全般に明るくなるようになることを到達目標とする。実際にこの科目終了後1ヶ月後には現地での生活(留学)が始まるので、現地事情とその文化的・歴史的背景をしっかり学び同国事情に詳しく知っていると言えるものとなるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
近づく長期留学と有機的に関連付けて、オーストラリアに関する総合的知識を上げるべく各自で努力すること。

評価方法
出席及び受講姿勢　20%　　授業毎のレポート　30%　　年末レポート　20%　　期末試験　30%

教科書 参考文献等　授業内で提示する	参考図書 「オーストラリアの歴史」M.クラーク(絶版につき図書館等で閲覧してください)

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	地域研究とは　オーストラリア研究
02	先住民アボリジニー（1）
03	イギリスのボタニー湾入植
04	ニュージーランド事情
05	オーストラリア大陸全土への入植
06	日豪関係史　ブルームの今昔
07	①ゴールドラッシュ　②ユーレカ砦事件
08	ブッシュレンジャー　オージーフットボール
09	オーストラリア連邦結成の道程
10	①白豪主義　②オーストラリア連邦成立後
11	①第一次世界大戦とオーストラリア　②第二次世界大戦～カウラ事件
12	ガリポリ戦を考える
13	先住民アボリジニー（2）～アボリジニー政策の変化
14	「盗まれた世代」とは
15	ヘンリー・ローソン　オーストラリア文学
16	期末試験

2019年度シラバス

科目名:地域研究Ⅲ	担当者:新海　英史	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
外交、安全保障の世界では、日本とEUは自由、民主主義、法の支配、人権といった基本的価値を共有するパートナーとされていますが、皆さんはEUを含むヨーロッパ諸国について果たしてどの程度ご存知でしょうか？本授業では、ヨーロッパ各国の政治、経済、社会の概要について学ぶと共に、EUが果たしている様々な役割についても知ることを目的とします。また、最近話題となっているBrexit(注：英国のEU離脱）についても触れます。

授業の到達目標
（１）ヨーロッパの過去と現在についての基礎的な知識を習得し、（２）授業で取り上げる英国、アイルランドなどを含むヨーロッパ各国の特徴について理解した上で、（３）そうした国々で起きるニュースについての自分なりの意見を持つようにすること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から新聞、インターネットニュースの国際面や政治経済面を読み、ヨーロッパで起きている様々な問題にも関心を強く持つようにすること。

評価方法
授業への参加度（出席、態度、コメントカード）30%、課題10%、確認テスト60%

教科書	参考図書
特に使用しないが、プリントを配布することがあります。	授業中に適宜案内する予定です。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する質問、個別の相談などがありましたら、授業が終わってから教員にお知らせください。

01	はじめに
02	ヨーロッパの全体像：ベネルクス、独仏、南欧、北欧、東欧、英国、EUについて
03	ベネルクス（オランダ、ベルギー、ルクセンブルク）の政治、経済、社会（オランダを中心に）
04	ベネルクス（オランダ、ベルギー、ルクセンブルク）の政治、経済、社会（ベルギー他を中心に）
05	ドイツとフランスの政治、経済、社会（ドイツを中心に）
06	ドイツとフランスの政治、経済、社会（フランスを中心に）
07	英国、アイルランドの政治、経済、社会（英国を中心に）
08	英国、アイルランドの政治、経済、社会（アイルランドを中心に）
09	北欧（デンマーク、スウェーデン）の政治、経済、社会（デンマークを中心に）
10	北欧（デンマーク、スウェーデン）の政治、経済、社会（スウェーデンを中心に）
11	南欧（イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ）の政治、経済、社会
12	東欧（ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリー）の政治、経済、社会
13	EUとは何か？
14	EUはどこに向かうのか？
15	まとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:地域研究Ⅳ	担当者:砂野　唯	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
アフリカと一口に言っても、熱帯雨林やサバンナ、砂漠を含み、その環境は多様で、その歴史や社会、文化、生業も全く異なる。この授業では、日本では取り上げられることが少ないアフリカの人びとの生業や生活、社会、文化の実態を学ぶとともに、国際社会におけるアフリカの立ち位置、日本との関係について考えます。授業前半にはアフリカの歴史や人びとの暮らしについて幅広く学ぶ。後半ではアフリカに関する書籍を読んで知識を共有することで得た知識をさらに深め、その後はアフリカに関する課題を学生が選択し、自主的に調べて発表する。

授業の到達目標
・アフリカに関する知識を幅広く学ぶ。
・グローバル化するなかで、どのようにアフリカが変容しつつあるのか考える。
・　正しい情報を収集し、解析、議論、プレゼンテーションする能力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業後半は、事前の情報収集や議論、発表を含むアクティブラーニング授業です。自主的な事前学習が必要になります。
アフリカに関するニュースに関心を持ち、新聞・ネット・著書から情報を収集すること。

評価方法
授業への参加度（受講態度・発言）40%　課題・発表40%　確認テスト20%

教科書	参考図書
適宜資料を配布します	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アフリカに関するニュースに関心を持ち、課題学習、授業中の議論、発表に積極的に取り組みましょう。
連絡先は初回授業にて伝える。

01	オリエンテーション：講義の目的と概要、スケジュールに関する説明
02	アフリカの環境・歴史
03	アフリカの政治・文化
04	アフリカの生態・生業・生活1（狩猟採集と牧畜）
05	アフリカの生態・生業・生活2（農耕）
06	アフリカの食文化と栄養事情
07	アフリカと国際開発
08	確認テスト
09	学生が選択し、読みんだアフリカに関する著書内容を発表してもらい、それについて議論する（社会・文化がテーマ）
10	学生が選択し、読みんだアフリカに関する著書内容を発表してもらい、それについて議論する（生業・生活がテーマ）
11	学生が選択し、読みんだアフリカに関する著書内容を発表してもらい、それについて議論する（歴史・政治・産業がテーマ）
12	アフリカについて考える1（テーマ設定と情報収集）
13	アフリカについて考える2（情報収集）
14	アフリカについて考える3（スライド作成の方法説明と実施）
15	アフリカについて考える4（プレゼンテーション）
16	なし

科目名:地域研究Ⅴ	担当者:布　和	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は保育学部ディプロマポリシーで求められる学びの課題の一部である「課題を発見・理解し解決しうる力（豊かな教養、専門的な知識・技能・思考力・判断力の育成）」の養成に関連している。授業は、広くアジアを視野にそれぞれの地域に分けて学習する。授業過程では、アジア全体の状況を紹介した上、関連する国々の歴史・文化・宗教などの事相を紙媒体資料並びに視聴覚資料を通して学ぶ。授業の形として、グループ学習やプレゼンテーションを取り入れるつもりである。

授業の到達目標
　15回の講義を通じて、アジアに関する基本的な知識を身につけ、それぞれの地域が直面する課題についての深い理解を持つことを期待したい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　アジアの多様性や各国が直面する多くの課題を十分に理解するには予習と復習にそれぞれ2時間を使ってほしい。

評価方法
　欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション（30%）及びレポート（40%）を総合して評価する。

教科書	参考図書
教科書を使用しないが、授業ごとに資料を配布する予定。	授業中に指定する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業の進度は事情により多少の変更が生じる。教員の連絡先とオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	講義紹介（アジアの現状）
02	アジアの歴史
03	アジアの政治
04	アジアの経済
05	アジアの宗教
06	アジアの文化
07	アジアの課題
08	第一回目の学生によるプレゼンテーション
09	東アジア
10	東南アジア
11	南アジア
12	西アジア
13	中央アジア
14	これからのアジア
15	第二回目のプレゼンテーション
16	なし

2019年度シラバス

科目名:地域研究VI	担当者:平沼　公子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
文化・政治・社会・歴史といった様々な視点からアメリカ合衆国を多角的に読み解き、グローバル化社会に必要な知識と教養を身につけ、豊かな感性を養います。また、授業内の活動を通し、国際教養こども学科のディプロマポリシーにある「グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニ ケーション能力」を養います。授業は事前課題への取り組みをもとに、ディスカッションを通してアメリカについて学びます。毎授業後、Moodleを通してレスポンスを提出してもらいます。

授業の到達目標
①アメリカ合衆国の社会・文化・思想についての基礎的な知識を習得し、グローバルな時代におけるアメリカ合衆国のあり方を理解する。②他国を理解することを通し、私たちの生きる現代を理解する。③多角的なアプローチを学ぶことにより、批判的（critical）に考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。
準備学習（2時間）：事前に与えられたリーディング課題の読破、または視聴覚資料の鑑賞。
事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について、Moodleへレスポンスを投稿すること。各授業の最後に、Moodle投稿内容について指示するので、それに従って行うこと。

評価方法
Moodleへのレスポンス 50%　確認テスト 50%

教科書	参考図書
プリントを配布する。	有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史ーテーマで読む多文化社会の夢と現実』（2003年、有斐閣アルマ）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業は、アメリカについての細かな情報を座学で学ぶものではありません。授業内で取り上げるトピックについて能動的に考える姿勢を評価しますので、「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。オフィスアワー、教員連絡先は授業中に指示します。

01	イントロダクション：アメリカを学ぶということ
02	アメリカ合衆国の概要とその精神
03	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析①ヴィクトリアズ・シークレットと美の基準
04	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析②流通する「多民族国家アメリカ」のイメージ
05	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析③ハリウッド、アメフト、テイラー・スウィフト
06	アメリカ社会における歴史の意味①『ポカホンタス』と文化盗用の問題（映画分析）
07	アメリカ社会における歴史の意味②『ポカホンタス』と文化盗用の問題（歴史表象の分析）
08	アメリカ社会における歴史の意味③ブラック・フェイスと南部連合旗
09	アメリカの日常生活①砂糖入り飲料の禁止法と銃規制
10	アメリカの日常生活②スターバックス、Sweatshop、グローバリズム
11	アメリカの日常生活③移民の国アメリカの現状
12	アメリカの日常生活④移民の国アメリカでどう生きるのか
13	グローバルな文脈で見るアメリカ①カナダ文学『赤毛のアン』とアメリカ的イメージの流入
14	グローバルな文脈で見るアメリカ②ポスト人種のアメリカ　～他者と寛容～
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:Teaching English for Children	担当者:加藤　あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This aim of this course focuses on the teaching of English to children between 5 and 12 years old. This course provides effective teaching methodology and various teaching materials that can be used when teaching English to EFL children.

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to
1) Understand what skills are required for teaching English to children
2) Plan lessons focused on selected themes, vocabulary items, grammatical structure
3) Evaluate and design teaching materials for various age groups

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring English/ Japanese dictionary to class. The course uses an active learning approach. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 20%　Writing Assignment 20%　Micro-teaching 20%　Teaching Materials 20%　Review Test 20%

教科書	参考図書
Junko Matsuzaki Carreira(2009)BRIGHT AND EARLY-Classroom English for Teachers of Children-(南雲堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour : Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	First and Second Language Acquisition
03	Methods and Approaches in Language Teaching
04	Teaching Listening & Speaking
05	Teaching Reading & Writing
06	Classroom Management
07	English Expressions Familiar to Children①　Classroom Commands
08	English Expressions Familiar to Children②　Daily Life of Children
09	Teaching Materials①　Games & Flashcards
10	Teaching Materials②　Songs & Picture Books
11	Individual Lesson Planning①
12	Group Lesson Planning②
13	Individual Micro-teaching①
14	Group Micro-teaching②
15	Review Test
16	None

科目名:Study Abroad Preparation	担当者:髙橋　一郎,内田　政一,加藤　あや美,小野　克志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:前期に行われる説明会等に必ず出席すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業は、3年次における海外保育ライセンス・プログラム参加に向けた事前学習を行うものです。約10カ月間の留学生活を有意義なものにするためには、留学先で起こり得る様々な課題を想定した事前学習が必要となります。授業内においては、留学を行うオーストラリアの事情から現地での学生生活等、プログラムについての詳細な解説、説明をしていきます。また、留学先に提出する書類作成等の手続きも同時に行っていきますので、授業の形態は、講義形式を交えながらのグループワーク等の演習形式とします。

授業の到達目標
　本プログラムに参加する意義を考え、留学先の国や保育分野の事情について理解することができる。また、留学先への手続き作業を通して、優先順位を考え、物事を遂行するという習慣や態度を身につける。さらに、グループワーク等から協働して動く力を身につけ、現地での生活で困らない程度にコミュニケーション能力を向上させる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　留学に関する書類等の提出を求められた場合は指示に従い、必ず期限までに提出できるよう仕上げること。また、留学先の国や地域の情報は、授業外においても自ら積極的に収集するようにし、参加前までに留学に対する意識を高めつつ、毎回の授業に臨むこと。さらに、導入されている英語教育プログラムに定期的に取り組むこと。

評価方法
　授業への参加態度30%　　レポート・書類作成30%　　グループワーク20%　プレゼンテーション20%

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布する。	授業内で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　海外保育ライセンス・プログラムは必修留学となっていることから、全員が毎回の授業に必ず出席すること。また、留学参加に必要な重要な説明や書類作成等、実務的な作業も含まれるため、やむを得ない事情以外の遅刻・欠席は認めない。加えて、現地生活を見据えたグループワークも多く取り入れていくことから、留学をする仲間たちとのコミュニケーションを密に図っておくこと。（教員との連絡手段は授業にて紹介する。）

01	海外保育ライセンス・プログラムの概要説明／留学提携校の最終プレゼンテーション（9/18）
02	留学先グループ編成／留学関係書類（願書・ホームステイ）に関する説明（10/9）
03	英語教育プログラムに関する説明（10/16）
04	オーストラリアにおける教育・保育（10/23）
05	留学に向けての英語学習および英会話①：日常生活（10/30）
06	留学に向けての英語学習および英会話②：保育現場（11/6）
07	留学先別グループ面談（11/13）
08	ビザ申請の説明（11/20）
09	留学に向けての英語学習および英会話③：プレゼンテーション（11/27）
10	留学に必要な申請に関する説明（12/4）
11	卒業研究テーマ設定について①：テーマ設定プロセス（12/11）
12	卒業研究テーマ設定について②：現地での情報・資料収集方法（12/18）
13	卒業研究テーマ設定について③：担当者との面談（12/25）
14	安全指導①：ケーススタディ（1/15）
15	安全指導②：グループディスカッション（1/22）
16	なし

科目名:Intermediate Communication in English Ⅰ	担当者:Lauren Landsberry,Indu Juneja	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Curtis Kelly and Chuck Sandy (2011) ACTIVE Skills for Communication Book 2, Cengage Learning	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Unit 1 - Class Facebook part 1: Listening
02	Unit 1 - Class Facebook part 2: Speaking
03	Unit 2 - Personal Motto part 1: Listening
04	Unit 2 - Personal Motto part 2: Speaking
05	Assessment #1
06	Unit 3 - Tall Tails part 1: Listening
07	Unit 3 - Tall Tails part 2: Speaking
08	Unit 4 - Keepsakes part 1: Listening
09	Unit 4 - Keepsakes part 2: Speaking
10	Assessment #2
11	Unit 5 - Team Spirit part 1: Listening
12	Unit 5 - Team Spirit part 2: Speaking
13	Unit 6 - Hot Spots part 1: Listening
14	Unit 6 - Hot Spots part 2: Speaking
15	Final Assessment
16	No test

2019年度シラバス

科目名:Intermediate Communication in English Ⅰ	担当者:Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Jack C. Richards and David Bohlke (2012) Speak Now 3, Oxford University Press	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction; Getting to Know You
02	I'm an only child.
03	She's a born leader.
04	We're both reliable.
05	As I was saying…, Assessment #1
06	I'd like to check in.
07	Here are some rules.
08	There are some problems.
09	That would be great.
10	Do you know…, Assessment #2
11	Sorry, my mistake.
12	Can I please…?
13	I'm broke.
14	I used to play hopscotch.
15	Final Assessment
16	No test

2019年度シラバス

科目名:Intermediate Communication in EnglishⅡ	担当者:Indu Juneja	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Jack C. Richards and David Bohlke (2012) Speak Now 3, Oxford University Press	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction; Getting to Know You
02	You didn't know?
03	A good friend is loyal.
04	I could do that.
05	I wish I'd remembered, Assessment #1
06	I'd rather not say.
07	It could be an ad for…
08	The main reason is…
09	It needs a good location.
10	You're expected to, Assessment #2
11	What does it mean?
12	What will happen if…?
13	It must have been…
14	Cars will most likely fly
15	Final Assessment
16	No test

科目名:Intermediate Communication in EnglishⅡ	担当者:Lauren Landsberry,Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Curtis Kelly and Chuck Sandy (2011) ACTIVE Skills for Communication Book 2, Cengage Learning	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Unit 7 - Class Cookbook part 1: Listening
02	Unit 7 - Class Cookbook part 2: Speaking
03	Unit 8 - Business Ventures part 1: Listening
04	Unit 8 - Business Ventures part 2: Speaking
05	Assessment Unit 7 & 8
06	Unit 9 - Job Interview part 1: Listening
07	Unit 9 - Job Interview part 2: Speaking
08	Unit 10 - TV Preview part 1: Listening
09	Unit 10 - TV Preview part 2: Speaking
10	Assessment Unit 9 & 10
11	Unit 11 - Public Opinion part 1: Listening
12	Unit 11 - Public Opinion part 2: Speaking
13	Unit 12 - Mini Debate part 1: Listening
14	Unit 12 - Mini Debate part 2: Speaking
15	Final Assessment Unit 11 & 12
16	No test

2019年度シラバス

科目名:教育実習Ⅰ	担当者:田端　智美,布施　佐代子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: 教育実習入門を履修済みであること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
今までの学びや体験を活かして、課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に観察実習を行い、後半に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の理解を深める　③幼稚園の教育・保育について体験的に学ぶ　④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ　⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶ。また幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。　⑥幼小の連携について理解を深める　⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・実習の実施に先立って、教育実習入門で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ｉハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅰ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。 2.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。 3.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通した実践的な理解を課題とする。 4.将来の幼稚園教諭としての学修課題や専門性を自覚する。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:教育実習指導Ⅰ	担当者:田端　智美,布施　佐代子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: 教育実習入門を履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育実習Ⅰのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に生かしていく。
授業の到達目標 ①幼稚園教区実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に生かしていく。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業内で詳細を提示 １年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。
評価方法 事前課題（ワークシート・指導案等）５０%、事後課題（事後課題発表等）５０%、授業への意欲１０%を総合的に評価する

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック	幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育実習Ⅰの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園における教育・保育の理解
03	３・４・５歳児の発達過程における理解
04	教育実習における指導案の書き方
05	指導案の作成と発表
06	事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え）
07	教育実習事後指導１（学びの振り返り）
08	教育実習事後指導２（自己課題の明確化）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:総合演習Ａ	担当者:内田　政一,髙橋　一郎,加藤　あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 　本授業では、「基礎演習」の授業で学んだアカデミックスキルズの応用という位置付けで展開するものです。「基礎演習」で見つけた課題に対して調べ、まとめる力をさらに発展させ、自ら問題を発見し、その問題を調査・分析し、発信する力を養っていきます。少人数のクラス編成によるゼミナール形式で授業を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実践していきます。
授業の到達目標 ①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポート作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）のさらなる向上を目指す。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　各授業において課題が示されるため、授業前に必ず準備をしてくるようにしましょう。また、毎回の授業において学習した内容は、復習をし自律的な学びにつなげるように意識してください。多くのグループワークを行うため、ゼミメンバーとは積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けましょう。詳細な活動に関しては、Moodle等で指示をします。
評価方法 課題提出の内容　50%　プレゼンテーション＆ディスカッション　30%　グループワークを含んだ授業参加度　20%

教科書	参考図書
課題図書及び課題文献については授業内で指示する。	授業内に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 今後の学習の土台となる科目であるため、積極的に参加してください。また、PCを必ず持参すること。各ゼミ担当教員への連絡手段は授業内にてアナウンスします。

01	ガイダンス
02	先行研究の調査方法（先行研究と文献収集について）
03	先行研究の調査方法（論文の精読とまとめ・分析について）
04	先行研究の調査方法（ハンドアウトの作成とグループ内発表）
05	Basic Words and Phrases（保育英語の基本表現）
06	プレゼンテーションとディスカッション（研究手法と研究計画書の作成方法について）
07	プレゼンテーションとディスカッション（効果的なプレゼンテーションの方法について）
08	プレゼンテーションとディスカッション（研究テーマの設定）
09	プレゼンテーションとディスカッション（研究計画書の作成）
10	プレゼンテーションとディスカッション（研究計画書に基づく調査及び分析）
11	Basic Words and Phrases（保育英語の応用表現）
12	学科講演会
13	研究発表準備
14	研究発表会
15	前期の振り返り / 夏季休業中の課題説明
16	なし

2019年度シラバス

科目名:総合演習Ｂ	担当者:内田　政一,髙橋　一郎,加藤　あや美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、「総合演習A」に引き続き、習得したアカデミックスキルズを応用する力を身につけていきます。自ら問題を発見し、その問題を調査・分析し、発信する力を養っていきます。少人数のクラス編成によるゼミナール形式で授業を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実践していきます。

授業の到達目標
①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポート作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）を駆使してレポートやプレゼンテーションの作成に取り組むことを通して、自ら発信する力を向上させることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各授業において課題が示されるため、授業前に必ず準備をしてくるようにしましょう。また、毎回の授業において学習した内容は、復習をし自律的な学びにつなげるように意識してください。多くのグループワークを行うため、ゼミメンバーとは積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けましょう。詳細な活動に関しては、Moodle等で指示します。

評価方法
課題提出（研究計画書）の内容　40%　課題提出（まとめレポート）の内容　40%　グループワークを含んだ授業参加度　20%

教科書	参考図書
課題図書及び課題文献については授業内で指示する。	授業内に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今後の学習の土台となる科目であるため、積極的に参加してください。また、PCを必ず持参すること。各ゼミ担当教員への連絡手段は授業内にてアナウンスします。

01	課題プレゼンテーション（課題に対するパワーポイントの確認と口頭発表）
02	課題プレゼンテーション（口頭発表に対する質疑応答）
03	Basic Words and Phrases（場面・状況による保育英語表現）
04	論文作成方法（文章構成・章立て・研究倫理について）
05	論文作成方法（研究手法（応用編）・個別テーマの設定と研究計画書の作成）
06	論文作成方法（研究計画書に基づく調査と分析）
07	学科講演会
08	Basic Words and Phrases（場面・状況により保育英語表現とアウトプット）
09	まとめレポート（先行研究のまとめ） レポート作成）
10	まとめレポート（調査と分析）
11	中間発表会
12	まとめレポート（中間発表を踏まえたレポート修正と確認）
13	まとめレポート（分析の確認とまとめ）
14	レポート発表会（口頭発表と質疑応答）
15	レポート発表会（口頭発表と質疑応答を踏まえた振り返り）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院・養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るように、実践例を出しながら進めます。

授業の到達目標
・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。・保育所保育指針等保育の基本について理解する・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください.・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。

評価方法
・授業参加・グループ討論参加態度３０％＋小課題レポート４０％＋最終レポート３０％

教科書	参考図書
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	授業でその都度紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する

01	保育とは何かを考える・・保育の理念と概念について学ぶ
02	子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ
03	保育の社会的役割と責任について学ぶ
04	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令を学ぶ
05	子ども・子育て支援制度、保育の実施体系、及び昨今の義務教育化や保育無償化について学ぶ
06	保育所保育指針における保育の基本を学ぶ
07	幼稚園教育要領を学ぶ・幼稚園と保育所の同時点と違いを学ぶ
08	保育の目標と方法・内容・環境を学ぶ
09	保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と循環を学ぶ
10	保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー1）を学ぶ(エミール乳幼児期)
11	保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー２）を学ぶ(エミール児童期)
12	保育の思想と歴史Ⅳ（倉橋惣三）を学ぶ
13	保育の思想と歴史Ⅴ（戦後）を学ぶ
14	保育の環境：再度保育とは何かを深める
15	まとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
　教育・学校の理念を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の歴史・思想・理論について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける課題は何かについて理解することにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

教科書 毎回、資料とプリントを配布する。	参考図書 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　月曜日昼休み　研究室

01	人間形成とアタッチメント
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

2019年度シラバス

科目名:子ども家庭福祉	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、子どもの成長発達と生活を保障するために、家庭や保護者に対して子育て支援を目的として実施する種々の社会的な施策や援助を学ぶ。子ども家庭福祉の意義や歴史的背景を学ぶ。子ども家庭福祉での児童の権利を学ぶ。子ども家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ。子ども家庭福祉の現状と課題を学ぶ。子ども家庭福祉の動向と展望を学ぶ。

授業の到達目標
子ども家庭福祉の意義や歴史的背景、子ども家庭福祉での児童の権利、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読んで予習を行い、疑問点など質問できるようにしておく

評価方法
課題レポート40%・授業参加・集団討論参加態度３０%・最終レポート３０%

教科書	参考図書
保育実践と児童家庭福祉論・保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書	授業で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から子どもに関するニュースに関心を持ち、新聞や他の報道に接すること。本も読むこと
オフィスアワー金曜日昼休み・メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

01	子ども家庭福祉の理念と歴史的展開
02	現代社会と児童家庭福祉
03	子ども家庭福祉の一分野としての保育
04	児童の人権擁護と児童家庭福祉
05	子ども家庭福祉の法律と行財政
06	子ども家庭福祉の実施期間・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と児童の健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	虐待防止、ドメスティック・バイオレンス
11	社会的養護
12	障害のある児童への対応
13	非行への対応
14	子ども・子育て支援制度の仕組み
15	保育と教育・療育・保険・医療などの連携とネットワーク
16	

2019年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題、について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書
　担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。

参考図書
　保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の社会保障、社会福祉の話題
02	社会保障、社会福祉の理念と概念
03	憲法が保障する生存の権利について
04	社会保障、社会福祉の歴史
05	社会福祉の理念の変化と社会福祉基礎構造改革
06	社会福祉の制度と法体系
07	社会福祉制度の実施体制
08	社会福祉の専門職と地域の協力者（民生委員制度）
09	社会福祉の相談援助
10	社会福祉の提供主体（社会福祉法人制度を含む）
11	社会福祉サービスの利用者と権利擁護
12	社会福祉の財政と利用者負担
13	生活保護制度の理解
14	高齢者福祉制度の理解
15	障害者福祉制度の理解
16	試験

2019年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、卒業（就職）するまでに、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

授業の到達目標
・保育者の役割と倫理について学ぶ
・保育士の制度的な位置づけを学ぶ
・保育士の専門性について学ぶ
・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。
・機会あるごとに子どもの様子を観察して記録に取る

評価方法
小レポート４０%・授業態度３０%・最終３０%

教科書	参考図書
無し	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する
オフィスアワ金曜日昼休み　メールアドレスa-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

01	保育者の役割と倫理について学ぶ・・保育とは何か・・保育者とはどうあるべきかを考える
02	保育者の仕事と役割Ⅰ幼稚園教育要領・保育所保育指針での保育者の役割
03	保育者の仕事と役割Ⅱ子ども理解と保育者の役割
04	保育者の仕事と役割Ⅲ保護者理解と子育て支援での保育者の役割
05	保育士の制度的な位置づけを学ぶ
06	保育者の連携・協働について学ぶ
07	保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ
08	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ野口幽香
09	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ森島峰
10	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ倉橋惣三
11	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ近藤薫樹
12	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ斎藤公子
13	保育とは何か・・・遊びを楽しくする・遊びを発展させるとは
14	保育とは何か・・・子どもの成長発達と保育者の役割
15	海外の保育について学ぶ　スウェーデン・ニュージーランド・デンマーク
16	

科目名:発達心理学	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く「子ども時代」の中でも保育の対象となる乳児・幼児・児童の時期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学ぶ。保育場面の映像や事例による学習の他、グループディスカッション等も随時取り入れて、より実践的に学びを深められるようにしていく。グローバルな視点から、多文化共生の中での子どもの発達と保育についても考えていく。

授業の到達目標
１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達　していく子ども」の姿を具体的に思い描くことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業に際して、準備学修と事後学修をきちんと行うことにより、理解の徹底をめざしたい。準備学修として、教科書の該当部分や配布資料をあらかじめよく読み、与えられた課題についてポイントや意見をまとめておく。事後学修では、学修範囲のポイントを中心に学んだことを確認し、理解と考察を深める。　子どもと実際にかかわる機会を積極的に持つように心がけ、子どもとかかわりながらさらに子ども理解を深め豊かにしていくよう努めてください。

評価方法
定期試験　７0%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループディスカッションへの取り組み状況等）１0%から、総合的に評価します。

教科書	参考図書
「育ちあう乳幼児心理学」心理科学研究会編　有斐閣	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日本だけでなく外国の子どもにも実習等でかかわる機会があるので、グローバルな視点から子どもの発達を的確にとらえ適切な対応を考える姿勢を大切にしましょう。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。

01	保育と心理学（１）子どもの発達を理解する意義、発達理解と文化、保育実践とのかかわり
02	保育と心理学（２）発達をとらえる基本的な視点と基礎理論
03	子どもの発達理解（１）0・1・2歳児の運動機能の発達と保育
04	子どもの発達理解（２）3・4・5歳児の運動機能の発達と保育
05	子どもの発達理解（３）0・1・2歳児の認知の発達と保育
06	子どもの発達理解（４）3・4・5歳児の認知の発達と保育
07	子どもの発達理解（５）0・1・2歳児の言葉の発達と保育
08	子どもの発達理解（６）3・4・5歳児の言葉の発達と保育
09	子どもの発達理解（７）0・1・2歳児の人とのかかわりの発達と保育
10	子どもの発達理解（８）3・4・5歳児の人とのかかわりの発達と保育
11	子どもの発達理解（９）0・1・2歳児の自我の発達と保育
12	子どもの発達理解（10）3・4・5歳児の自我の発達と保育
13	子どもの発達理解（11）児童期の発達と教育
14	生涯発達と初期経験の重要性（１）胎児期・新生児期との関連で乳幼児の発達を考える
15	生涯発達と初期経験の重要性（２）青年期・成人期・老年期との関連で乳幼児の発達を考える
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:吉田　真弓	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本に基づいて、総合的に指導するという考え方を理解する。また幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。そして教育・保育内容を実践に即して総合的にとらえることができるように、ＤＶＤ教材を活用したり、グループにおける話し合いや発表をしたりしながら具体的に学ぶ。
授業の到達目標 ・乳幼児期の教育・保育においては、子どもの内面を理解することが一番の出発点であることを理解する。・乳幼児から幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし、総合的な指導の在り方や、保育者の役割を理解する。・乳幼児の興味や関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を、事例を通して理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 子ども・子育て支援新制度がスタートした今日、ニュース・新聞等における情報に関心を向け、自分の考えをもつようにしよう。
評価方法 筆記試験６０％、授業の振り返り２０％、授業態度２０％による総合評価

教科書 レジュメ等を配布	参考図書 幼稚園教育要領　　幼稚園教育要領解説　　保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、子どもの内面理解の大切さを理解する。
02	歴史的背景を捉えながら、教育・保育の基本を理解する。
03	乳児期の保育に関わるねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
04	満１歳以上満３歳未満児の保育に関するねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
05	満３歳以上児の保育に関するねらい及び内容を踏まえて、総合的に教育・保育を行う重要性を理解する。
06	乳幼児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
07	３歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
08	４歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
09	５歳児の興味・関心や発達に応じた具体的な指導の在り方を理解する。―視聴覚教材を通して―
10	幼児教育における教育課程・指導計画の在り方や指導法について学ぶ。
11	事例を通して幼児理解を深め保育者としての関わり方を学び、教育・保育に対する評価の重要性を理解する。
12	事例を通して幼児理解を深め、保育者としての関わり方をグループで話し合い発表する。
13	具体的な幼児の姿と関連づけながら環境を構成し、保育者の援助を考え実践するための知識や技能を身に付ける。
14	具体的な幼児の姿と関連づけながら環境をイメージし、指導案作成の方法及び評価の在り方について学ぶ。
15	幼児期の教育・保育と小学校教育との発達や学びの連続性をふまえた円滑な接続について理解する。
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:保育内容指導法（環境）	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

授業の到達目標
幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関われるように、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

評価方法
毎回のレポート40%　授業態度30%、確認テスト30%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領	授業で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜日昼休み
メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

01	乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について
02	乳幼児の育つ環境について学ぶ
03	乳児期の認識の発達について学ぶ
04	幼児期の認識の発達について学ぶ
05	ごっこ遊びと子どもの発達
06	草花遊びと子どもの発達
07	構成遊びと子どもの発達
08	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動）
09	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動）
10	標識・文字などに関わる保育の実際・教材研究
11	数量などに関わる保育の実際・指導案の作成と模擬授業
12	図形などに関わる保育の実際・情報機器の活用
13	早期教育について考える
14	意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり
15	幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト
16	

科目名:保育内容指導法（言葉）	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、保育内容の言葉に関する専門的知識と実践的技能の修得を目指します。言葉と児童文化財について、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　言葉と児童文化財について発達を促す援助を理解できる
２　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※前期の「幼児と言葉」と同一の教科書を使用します	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（水曜昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター）
03	言葉と児童文化財　－教材の種類と実演
04	言葉と児童文化財　－絵本のもつ役割と選び方
05	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－
06	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－
07	保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領における領域「言葉」－
08	保育内容の領域「言葉」－保育所保育指針・教育・保育要領における領域「言葉」－
09	保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－
10	言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－
11	言葉と絵本　－絵本の構造と特徴－
12	言葉と絵本　－絵コンテ作り－
13	言葉と絵本　－絵の制作－
14	言葉と絵本　－絵本の紹介と実演－
15	まとめと確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:幼児と環境	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 現代の乳幼児の育ちに影響を与えている環境について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる現代の幼児をよりまく環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関りの発達などについて学ぶ
授業の到達目標 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する 幼児期の施行・科学的概念の発達を理解する 幼児期の標識・文字など、情報・施設との関りの発達を理解する
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業外において、様々な環境が幼児にどのような影響を与えるか、観察しながら、身近な環境に興味を持つように
評価方法 課題レポート40%・授業への参加や集団討論への参加態度30%・最終レポート30%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・その他授業で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜日昼休み
メールアドレスa-harada@ohakagakuenn
-u.ac.jp

01	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・その他授業で紹介する
02	乳幼児期における発達における環境との関り
03	乳幼児期・児童期の認知的発達
04	乳幼児の物理的、数量、図形との関り・教材研究
05	乳幼児の自然との関り①（遊び・飼育・栽培）・情報機器の活用
06	乳幼児の自然との関り②（自然体験活動
07	乳幼児期の標識・文字などの関り
08	まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:幼児と言葉	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養いつつ、次の学修内容を習得していく。幼児の言葉の発達について、発達段階を追いながら具体的な事例を踏まえて理解を深める。幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化財等の種類と使い方について理解していく。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をする。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用する。

授業の到達目標
幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。
領域「言葉」と小学校の教科「国語」等とのつながりを理解し、適切な対応ができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に初回の授業で指定した課題を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出に加えて、予習復習の学修状況を40%、授業の初回に指定した課題を20%、最後のまとめにおける確認テスト40%として総合的に評価する。

教科書
保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※後期の「保育内容指導法（言葉）」と同一の教科書を使用します。

参考図書
授業の初回に指定します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	授業全体の流れの説明及び幼稚園教育要領について
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	幼児の言葉の言葉　－３歳児の事例を踏まえて－
05	幼児の言葉の発達　－４歳児の事例を踏まえて－
06	幼児の言葉の発達　－５歳児の事例を踏まえて－
07	言葉の発達を促す児童文化財
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽Ａ	担当者:石山　英明,古賀　弘之,加藤　希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 2／楽譜の意味、音名と階名、音符ドリル、ソルフェージュ
03	レッスン 3／音の幅、弾き歌い、音符の長さ
04	レッスン 4／リズムと拍子、音階と調、、音符ドリル、ソルフェージュ
05	レッスン 5／5度圏、近親調、音符ドリル、／小テスト
06	レッスン 6／さまざまな調号、さまざまな記号、音符ドリル、ソルフェージュ、弾き歌い
07	実技試験／楽語、楽典の復習1、ソルフェージュ
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児音楽Ｂ	担当者:石山　英明,古賀　弘之,加藤　希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
課題の習得により、円滑で音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、そして、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル88番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲はコードの理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示）
02	レッスン 2／音程の種類、音程の判定方法、音符・音程ドリル、ソルフェージュ
03	レッスン 3／長短系音程、完全系音程、派生音を含む音程、音符・音程ドリル
04	レッスン 4／音程のまとめ、弾き歌い、確認テスト 弾き歌い
05	レッスン 5／コードとコードネーム、コードネームのルール、身体表現と音楽（導入）
06	レッスン６／メジャー・マイナーコード、コードの転回形、セブンスコード、身体表現と音楽（応用） レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	実技試験／器楽合奏（コードの活用）
08	実技試験の振り返り／楽典試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:幼児造形Ａ	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける
（1）保育実践に必要な表現力を身につける
保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力
（2）保育実践に関する知識についての理解
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について）
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児造形Ｂ	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:　　幼児造形Aを履修済みであること 幼児造形Aを履修済みであること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具の応用的・発展的な扱いと安全性について理解・保育実践に必要な造形活動の環境構成について理解

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、	3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について）
02	立体演習１（空き箱を使った工作について）
03	立体演習２（ペットボトルを使った工作について）
04	立体演習３（紙皿を使った工作について）
05	立体演習４　（紙コップを使った造形あそびについて）
06	製作活動を通した模擬保育１(素材を組み合わせた表現について)
07	製作活動を通した模擬保育２(粘土遊びについて)
08	活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:幼児体育Ａ	担当者:木村 達志, 寺田　恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しむことができるようにする。

授業の到達目標
■指導者として、基本的な声掛けや運動指導の方法を身につける
■幼児体操の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■新聞紙の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■鬼遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■水遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■身体表現の楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、毎回の授業後に授業中に取ったメモを整理し、授業ノートへ清書を行って下さい。

評価方法
1.受講態度（50%） 2.授業ノートの提出（50%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。B5サイズの大学ノートを用意し、授業ノートとして学期末に提出してもらいます。毎週の事後学修を欠かさないようにして下さい。学期の途中でチェックすることもあります。運動禁忌の場合は、教科担当へ申し出て下さい。連絡手段は授業の中で案内します。

01	幼児体育の理念および授業計画について（寺田恭・木村）
02	幼児体操、からだを動かす歌遊び（木村）
03	新聞を使った遊び（木村）
04	簡単なルールの鬼遊び（木村）
05	仲間を助ける鬼遊び（木村）
06	身体表現運動（様々な模倣からカラダを感じる）（寺田恭）
07	運動会における身体表現（寺田恭）
08	水遊び　水に慣れる(親しむ)運動遊び（寺田恭・木村）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:幼児体育Ｂ	担当者:木村 達志,寺田　恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育Aから継続して、乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、体育の意義やねらい、内容・方法についての理解と習得をはかり、保育者として実践力を高める。各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、体育の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。 特に、各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、「幼児体育」の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。

授業の到達目標
■運動遊びを指導する上で、安全管理に対する理解とその配慮ができる。
■サーキット遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■いすを使った運動遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■運動会の競技指導ができる
■縄跳びを使った遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■ボール遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■伝承遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、毎回の授業後に授業中に取ったメモを整理し、授業ノートへ清書を行って下さい。伝承遊びである竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽などの見本を子どもの前で見せることが出来るようになって下さい。

評価方法
1.受講態度（30%） 2.授業ノートの提出（50%） 3.基礎的技能の習得状況（20%）

教科書	参考図書
幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱	授業の中で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。B5サイズの大学ノートを用意し、授業ノートとして学期末に提出してもらいます。毎週の事後学修を欠かさないようにして下さい。学期の途中でチェックすることもあります。運動禁忌の場合は、教科担当へ申し出て下さい。連絡手段は授業の中で案内します。

01	サーキット遊び　平均台、巧技台、跳び箱、マットなどの使い方を学ぶ（木村）
02	サーキット遊び　運動遊具を組み合わせた遊び方を考える（木村）
03	椅子を使った遊び（木村）
04	運動会の親子競技の指導（木村）
05	縄を使った運動遊び（寺田恭）
06	ボール遊び（寺田恭）
07	伝承遊び　用具を使わない遊び（寺田恭）
08	伝承遊び　竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽（寺田恭）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:多文化共生研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。なお、下記授業計画の順番が替わる場合があります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%

教科書	参考図書
幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領　(詳しくは授業第1回目に話します)	図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	ウサギとカメ
02	ステレオタイプ「A子はうざいよ」
03	わっしょい、わっしょい
04	黒い未亡人
05	猿回しとイルカショー
06	過去・現在・未来
07	トーキー
08	太陽は味方か敵か？月は？
09	クイズと発表
10	命
11	遊ばない保育!?
12	日本
13	天災は忘れた頃やってくる
14	国際結婚
15	ケーススタディー
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:地域研究Ⅱ	担当者:斎　孝則	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識」と「豊かな人間性」に直結する科目として位置づけられている。広く世界に目を向けるグローバル人材になることを目標として、日本の文化や歴史等に関する基本的な事柄を簡潔かつ丁寧に説明する練習を積みます。説明は日本語と英語両方で行ってもらいます。グループ学習やグループ発表を何度も行います。提出された課題には Moodle サイトを通してフィードバックを行います。

授業の到達目標
（１）「日本の文化や歴史等に関する基本的な事柄」を理解する。
（２）上記について日本語で簡潔かつ丁寧に説明できるようになる。
（３）上記について英語で簡潔 かつ丁寧に説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で習ったことをヒントとして、授業外では日本の文化や歴史についてさらに研究を深めます。また、それを日本語と英語で簡潔にまとめます。さらにまとめたものを日本語と英語で発表する練習をします。２単位の科目なので１回の授業に対して４時間程度の予習、復習をして下さい。

評価方法
授業中の学修活動は主にグループ発表における発表の簡潔さ、丁寧さで評価します。また、文章に書いてもらい、文章の簡潔さ、丁寧さで評価します。授業外の学修活動は Moodle で提出されたまとめの簡潔さ、丁寧さで評価します。（評価の配分）小テスト30%、プレゼンテーション30%、リフレクション30%、コースリフレクションポートフォリオ10点

教科書 自作テキスト配布予定	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料の提示やレポート等の提出を Moodle で行います。連絡先は授業で開示します。質問はオフィスアワーを活用して下さい。

01	年中行事（１）：お彼岸とは何か
02	年中行事（２）：七草がゆは英語で何と言うか
03	日本の宗教：日本にはカミさまは何柱（どのくらいの数）おられるか
04	祭と縁日：縁日には何をするか
05	東京の名所：皇居はどこにあるか
06	京都の名所：金閣寺はいつ頃できた
07	日本の大学：その特徴
08	日本の教育：長所と短所
09	日本の伝統料理：懐石料理ってなに
10	和食のマナー：説明できますか
11	日本の政治：基本的な仕組みを思い出そう
12	日本の経済：旭化成はどこにある
13	代表的日本人（１）伊能忠敬
14	代表的日本人（２）東郷平八郎
15	代表的日本人（３）杉原千畝
16	なし

2019年度シラバス

科目名:チームビルディング実践	担当者:寺田　恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　チームで働くことの意味や意義を理解し、協力してより良いものを創り上げていくための理論と実践について学ぶ。授業の前半では、個人的スキルや問題への取り組み方がチーム力アップの可能性に繋がることをあらゆる角度から理解し、後半では、実践を通してより優れたチームとしての取り組み方を身につける。
授業の到達目標 　学生は、他者の力と自分の力を融合させ、チームの課題や目標に向かって物事を構築していく、その方法と実践力を身につけることを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　前もって与えられたテーマに対して発言できるよう準備をしてくることを準備学修とする。また授業で学んだ内容をフィードバックし、現在の自分に足りない力を客観的に把握すること、さらにその力の習得に必要な方法を、自ら考え実践することが事後学修に相当する。
評価方法 毎回のミニレポート（3点×15回＝45点満点）、実践研究のグループ発表（10点×3回＝30点）、試験25点満点の合計100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布。	その都度提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) チームビルディング用のファイルまたはノートを用意すること（A4サイズ）連絡を取りたい場合は寺田恭子研究室（管理棟2-4）まで。授業の前後でもOKです。

01	チームビルディングとは何か
02	様々な現場におけるチームでの働き方
03	自己の成長　他者の成長（自己分析・他己分析）
04	自己期待と他者期待
05	チームの課題達成のプロセスにおける重要ポイント
06	立案・合意形成・役割分担
07	リーダーシップとフォロワーシップ
08	課題発見力と全体を俯瞰する力の育成
09	実践研究①　課題への取り組み　～私たちが目指したい保育者～行動指針マップ制作
10	実践研究②　発表・批評・フィードバック
11	実践研究③　各グループテーマの設定・発展的取り組みの実際
12	実践研究④　発表・批評・フィードバック
13	実践研究⑤　統一課題への取り組み　掘り下げ方と新たな可能性への取り組み
14	実践研究⑥　発表・批評・フィードバック
15	チームビルディングのまとめ　個々におけるチームビルディング力の客観的評価と課題
16	試験

科目名:Basic Communication in English I	担当者:Lauren Landsberry,Indu Juneja,Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan.	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction; Getting to Know each other
02	Unit 1 - Lifestyles part 1: Listening & Speaking
03	Unit 1 - Lifestyles part 2: Skills Expansion
04	Unit 2 - Leisure part 1: Listening & Speaking
05	Unit 2 - Leisure part 2: Skills Expansion, Assessment #1
06	Unit 3 - Getting Along part 1: Listening & Speaking
07	Unit 3 - Getting Along part 2: Skills Expansion
08	Unit 4 - Interests part 1: Listening & Speaking
09	Unit 4 - Interests part 2: Skills Expansion
10	Unit 5 - Telling a Story part 1: Listening & Speaking, Assessment #2
11	Unit 5 - Telling a Story part 2: Skills Expansion
12	Unit 6 - Celebrations part 1: Listening & Speaking
13	Unit 6 - Celebrations part 2: Skills Expansion
14	Course Revision
15	Final Assessment
16	No test

2019年度シラバス

科目名:Basic Communication in English II	担当者:Lauren Landsberry,Indu Juneja,Joseph Sichi	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan.	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Course Introduction; Getting to Know each other
02	Unit 7 - Food & Drink part 1: Listening & Speaking
03	Unit 7 - Food & Drink part 2: Skills Expansion
04	Unit 8 - Rules part 1: Listening & Speaking
05	Unit 8 - Rules part 2: Skills Expansion, Assessment #1
06	Unit 9 - Adventures part 1: Listening & Speaking
07	Unit 9 - Adventures part 2: Skills Expansion
08	Unit 10 - Health part 1: Listening & Speaking
09	Unit 10 - Health part 2: Skills Expansion
10	Unit 11 - Comparisons part 1: Listening & Speaking, Assessment #2
11	Unit 11 - Comparisons part 2: Skills Expansion
12	Unit 12 - The Modern World part 1: Listening & Speaking
13	Unit 12 - The Modern World part 2: Skills Expansion
14	Course Review
15	Final Assessment
16	No test

科目名:教育実習入門	担当者:田端　智美, 寺田　恭子, 石山　英明	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、目標を達成する。
授業の到達目標 ①幼稚園の役割や機能についての理解　②就園している子どもについての理解　③観察・参加・部分実習・指導実習を通して教育の実際についての理解　④教諭の職務内容についての理解　⑤家庭・地域との関係についての理解
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 実習のための体調管理を十分に行うこと。絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備をしておくこと。
評価方法 実習園からの評価60%、実習日誌20%　実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況・実習巡回指導報告書など)10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習入門手引き・ハンドブック	幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 教育実習入門手引き・ハンドブック

01	1週間の教育実習入門実習を対象に、その事前、事後における指導を通して実習における学習課題の効果的な達成と、部分的とはいえ社会公共的な活動への参加にあたっての留意事項等の確認等を課題とする。 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習入門指導」を履修することが条件となる。 （未履修者は本実習に参加することはできない） 遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。　連絡手段　事務局実習担当
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:海外保育フィールド・スタディ	担当者:髙橋一郎,　小野克志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
海外の保育現場に実際に入り実習を行う。日本との違い、共通点など、様々な視点で異国における保育現場を観察する。ニュージーランド・ハミルトン市街の保育園を中心に実習を行う。

授業の到達目標
①日本の保育と外見上の違いのみならず、保育に対するコンセプトの違いも学ぶ。何がどう違うのか。どのような考えに基づいて保育が行われているのか、などを自分なりに発見する。②可能な範囲で英語でコミュニケーションを取るようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で指示します。

評価方法
①事前指導クラスの評価10%　②現地実習の評価80%　③事後研修10%　それぞれの出席及び活動を総合的に評価します。

教科書	参考図書 『保育の場で子どもの学びをアセスメントする―「学びの物語」アプローチの理論と実践』マーガレット・カー　2013年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

01	①事前指導 授業で渡航地の文化、実状などを学ぶなどの事前学習を行う ②現地実習 現地で保育園に入り実習を行う。最後には子どもの前で出し物を出す ③現地文化 全員ホームステイで生活をする。保育のみでなくその国の文化を経験する ④現地学習 現地の高等教育機関(大学) を訪ね、講義を受ける ⑤現地視察 障がい児施設、先住民専用の園、など訪問し見聞を広げる ⑥事後研修 2週間の滞在を終えての反省会
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:海外幼児教育インターンシップ	担当者:加藤　あや美,内田　政一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。
授業の到達目標 研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもや実習園のスタッフ、さらにはホストファミリーと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。
評価方法 授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%

教科書 適宜、プリントを配布します。	参考図書 授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、原則として説明会への参加が必須条件となるため、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	＜事前授業＞ 事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 ＜現地研修＞ 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は30～40万円後半までの設定となる見込みです。１週目は語学及び文化研修を主としたプログラム、2、3週目は現地の保育施設にて実習を行うプログラムとなっています。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	